

令和6年度 第2回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時		令和6年12月24日（火） 10:00～12:00
開催場所		二宮町役場 第1会議室
出席者	委 員	出席7名 大田 博樹 委員、帰山 訓 委員、荒木 雅幸 委員、 渋谷 佳代子 委員、井通 隆正 委員、上村 舞子 委員 川平 和代 欠席0名
	町	政策部長
	事務局	政策部企画政策課3名
傍聴者数		0名
会議次第		1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 （1）二宮町行政評価の意見集約結果について （2）二宮町総合戦略評価について （3）その他 4. 閉 会
配布資料		資料1 行政評価施策評価シート（令和5年度実績） 資料2 総合戦略評価について 資料3 総合戦略施策評価シート（令和5年度実績） 資料4 施策に関連する事業の説明 参考資料1 総合戦略の施策に関連する予算等事業の基礎評価シート

【議事要旨】

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

（１）二宮町行政評価の意見集約結果について

（主な意見交換等）

施策１「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」

○ こども向けコーナーに関する記述が前回発言した意図と違うため、「図書館のこども向けコーナーについては、大きな改修よりもまずはすぐに着手できる小さな改善が必要。一角におもちゃを設置すると、乳幼児連れの保護者も利用しやすくなる。」といった内容に修正してほしい。

● 修正させていただきます。

施策２「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」

○ 「若い転入者は、こどもを連れて転入される方が多い・・・」の意見について、自身の感覚で意見を出したのだが、今の書き方では裏付けされた数値に基づいているように捉えられてしまう。もし、そのようなデータがあればよいのだが、それがなければ「町内で出産せず、こどもを連れて転入される方も多いので、」としたい。

● 転入される方の傾向としては間違っていないと思います。ただ、実際に裏付けされた数字はないため、いただいたご意見の内容で修正をさせていただきます。

施策３「気候変動対策による持続可能なまちづくり」

意見なし

施策４「誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり」

意見なし

施策５「活力があふれる、選ばれるまちづくり」

○ 現在、遊休荒廃地の数が 759 筆あると説明があったが、移住相談会に参加した際に、移住を考えている方から「町内で畑はできるか」や、「地元で働くことはできるか」などと聞かれることがよくあり、その度に町内には土地や産業があまりないと答えていたので、それだけ手をかけることのできる土地があるなら、遊休荒廃地の解消にコストを割いて移住者にアピールしてもよいのではないかと。

◎ 関連する事業と KPI の記載で、「遊休・荒廃農地」と「遊休荒廃地」それぞれ違った名称となっているが、内容にも違いがあるのか。

● 内容に違いはありません。

◎ KPI の遊休荒廃地の復元整備は、かつて農地だった土地が、荒廃してしまっているため復元するという意図でよいのか。

● そのとおりです。

- ◎ 先ほど意見のあった、農地を借りたい方がいるのに土地がないという件については、実際は土地に余裕があるので対応は可能ということか。それとも、所有者が手放さなければ対応できないといった課題があるのか。
- 公的機関が所有者と仲介して貸借を進めることができる制度はあるものの、農家資格を満たしていない一般の方は農地を借りることができないため、難しい部分もあります。ただ、援農制度などのように農家を手伝う形で農業に携わることも考えられるので、何かしらの方策を検討する余地はあると思います。
- 町が実施しているふれあい農園のように、大きな土地でなければ町が仲介して貸し借りできるのか。
- 荒廃農地となると、山奥に点在することもあるため、交通手段などで課題が生じてしまうことも懸念されます。
- ◎ とはいえ、現在、759筆もの荒廃地があるのだから、所有者と農地利用を希望する方を積極的に仲介するなどの支援がなければ、今後も解決しない課題となってしまう。
- 現在の対策として、農業委員会は毎年、1筆ずつ農地を現地確認し、土地が荒れている場合は所有者に対して貸し出しや売却の意向を確認しています。
- ◎ 荒廃地は放置すると動物が侵入して繁殖することなどもあるので、適正に管理しなければならない。そのようなことから、「遊休荒廃農地を無くすための積極的な取り組みが必要」として意見を追加すること。
- 意見を追加します。

施策6「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」

- 「会費の減額」という文言を追加していただきたい。
- 会費については、使途が重要になると思いますので、ただ減額というだけでなく、使い道を明らかにしたうえでということではいかがでしょうか。
- 転入された方が、町のことを何も知らない状態で用途を示されたとしても、意見を述べることは難しいと思うので、「会費の減額や徴収方法を工夫する」といった内容にするのはどうか。
- ◎ 会費に対し高いと感じる理由は、金額に対してリターンが少ないことが原因になると思うので、使い道が自身に合わなければ誰でもそう感じてしまう。それであれば、使い道を示すのではなく「適正な料金」としてはどうか。
- ただ単に減額としてしまうと、町内会が必要だとしても転入者がそう思わなければ事業ができなくなってしまうことになり、折り合いをつけるのが難しくなってしまう懸念があります。
- ◎ ある程度のリターンさえあれば、金額の折り合いをつけることはできると思うので、「誰もが納得できる会費を目指す」という文言にすること。
- 町内会費に差があるのは、町内会によってイベントなどが違うからなのか。
- 町内会は自治組織であり、各々が判断して会費を設定しています。町から会費額

等について何か言うことはできないのですが、全体に対して他の町内会の会費額等を情報共有させていただいています。

- 移住者は町内会のことを把握しない状態で移住することから、後から会費の差などの情報を知ることになる。町内会ごとの差が移住者にもわかるものがあると思う。
- ◎ 移住相談会の際に町内会ごとのリストなどを示すことはできるのか。
- 可能ですが、移住者の方がリストを見て、移住する地区との整合ができるかなどといった課題はあるかと思います。
- ◎ 今あった意見に関する内容を追加すること。ただ、すべてを行政に頼ることは難しいので、町民間でコミュニティを形成し情報を提供できる体制を整備することで、行政とは別にサポートできるようになればさらによいと思う。
- ご意見のあった資料は準備しますので、ぜひ、移住相談会の際は移住を希望する方と情報共有していただければと思います。
- ◎ 特定の方にだけ利する情報は行政からは発信しづらいので、町民ならではの情報を相談会などの場でお互いに交換できればさらに活性化するのではないかと思う。

（２）二宮町総合戦略評価について

（主な意見交換等）

施策１－１「公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出」

- 東大果樹園跡地のイベント数は年々増えているとのことだが、利用しているのは１団体しかいないということか。
- KPI では新規利用団体のみとしているため１件となっていますが、継続して利用している団体を含めると数は多くなります。
- この KPI は、どのような基準で C と評価したのか。
- KPI の達成状況は、各年度の計画値に対する達成の割合から機械的に判断しており、計画値に対する達成率は 50% となっていることから C としています。
- 東大果樹園跡地におけるイベント数は増加傾向にあり、新規団体がいるにも関わらず、KPI の達成状況を機械的に C とするのは厳しいと思う。
- 東大果樹園跡地活用事業の課題として挙げている「各団体の既得権の主張が顕著になっている。事務局体制も不安定であり、計画的な事業展開が難しく、将来のあり方を具体的に検討する時期にきている」という点について、これに対処しなければ新規団体数を増やすのは非常に難しいと感じるが、令和 6 年度においてこの先の具体的な検討はしているのか。
- 主体となっている協議会とは、このままの状況では運営を継続することは難しいという話はしていますが、現時点では、協議会全体というよりは個々の団体がこれまでどおり活動が続けたいと考えているに留まり、打開策を見出せていないのが正直なところです。
- 各団体の既得権の主張が顕著になっていることが、新規団体が参加する障害に

なっているということはないか。

- そのような理由ではなく、この場所に興味を持って利用していただける団体やイベント参加者が限られているというのが現状です。そのため、東大果樹園跡地を知って頂けていないことが課題で、町としても幅広い方に使っていただきたいという思いがある一方、実現に至っていないところです。
- 町でも積極的に利用してもらいたいとのことだが、町民に対して町はどのようなPRをしているのか。
- 町は協議会に貸し付けているため、いづれどこが利用するかは協議会で決めています。そのため、町が積極的にすることは難しい状況です。協議会としても知ってもらうためのイベントを開催しているものの、効果があまり出ていません。
- 東大果樹園跡地は、ここ数年で非常に盛り上がっているのを感じる一方、やはり同じ団体ばかりが利用して、イベントにも同じ人が参加している状態なので、新しい方にとっては身内感が強くて入りづらいように思う。そういった今の状況を見て自分たちの団体も利用したいという考えには至らないのではないか。
- ◎ 現在の協議会に委託するという仕組みは変えられないのか。
- 令和9年度までは協議会が管理することになっています。
- 令和9年度に切り替えを行う際に、仕様の中で新規参加団体を確保する旨、要件に盛り込むなどといった見直しは可能なのか。
- 今も各利用団体が連携して取り組むこととしていますが、うまくいってないのが実情です。
- ◎ この評価で設定している KPI と協議会の目標を連動させ、協議会にも責任を担ってもらう仕組みに見直し目標の達成を目指すべきだと思う。
- ◎ 外部評価としては、KPI における「東大果樹園跡地を専用予約して利用した新規団体数」については、新規団体だけでなく既存団体も含めなければ、達成が相当困難な目標になってしまうということ。また、東大果樹園跡地の利用方法については、柔軟に対応する必要があることや、協議会にあっては、町と同じ目標をもって運営するとともに、利用について積極的に PR する旨意見として追加すること。
- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

施策1－2「地域で支えあう体制の構築」

- ◎ 資料4の認知症総合支援事業の説明資料で、児童・生徒・教員の受講者数のみ記載していることに理由はあるのか。
- あくまで一例として挙げています。施策の KPI の実績には学校関係以外の受講者も含まれています。
- 認知症サポーター養成講座は、一般町民に対しては実施しないのか。

- 一般の方を対象とした講座も実施しており、町内に在住・在勤・在学の方で概ね 10 名以上の参加者がいれば、無料で講座の申し込みができるようになっています。
- 認知症サポーター養成講座は町が独自にやっているものなのか。
- 全国で一般的に実施しているものですが、開催にあたっては地域包括支援センターが対応しています。
- 町では、備蓄食料が期限切れのため 2,000 食分廃棄したという話を聞いたが、例えば、期限の半年前に地区やこども食堂に配布するなどすれば、防災を意識してもらうための良い機会になるのではないか。
- 学校では毎年、入学生の人数に合わせて備蓄食料を購入していますが、期限の迫ったものは卒業生に対して配布するなどの取り組みをしています。
- 神奈川県ではフードドライブという取り組みを実施しており、県でも期限が近い水やアルファ米、乾パンなどの備蓄食料を社会福祉協議会や NPO などに配布している。そのため、町でも配布できるものがあれば、相談してもらえればと思う。
- 年に 1 回 11 月にふるさとまつりを実施しており、イベントでは防災ブースの設置がされている。そこで備蓄食料を配布し、実際に食べてもらうなどすれば、町としても PR になると思うので、そのようなイベントの活用を検討してほしい。
- 富士見が丘の地区役員は、毎年 3 月 1 日から新体制となるため、現在、次期役員を選出しようとしているところだが、手を挙げてくれる人が少なくなり、結局、現役員が延長することになってしまうことを危惧している。やはり、高齢化によってできないという人が多く、いずれは近隣地区との合併やイベントの廃止、縮小も視野に入れなければいけないと感じている。
それに、今の役員が苦勞しているのを見て、町内会自体に入りたくないと感じてしまう人もいると思う。
- ◎ 防災などの観点から地区は重要なので、維持していかなければならないが、確かに課題は多く現実的に厳しい状況であると思う。
- 百合が丘もアパートが何棟かあるが、ほとんどが町内会に入っていないので、そこには情報が全く届かず、イベント情報の周知や、町の PR ができない状況となっている。例えば、町内会活動に関して、外部に委託することを検討したことはあるか。デメリットもあるとは思いますが、メリットも大きいと思うので、実際に導入している事例などから、ひとつの手段として検討してほしい。
- ◎ 適正に管理ができるのであれば、外部への委託も検討する余地はあるのではないか。ただ、意見の集約も必要であるため、導入にあたっては時間をかけて進める必要があると思う。
- ◎ 外部評価としては、認知症サポーター養成講座に積極的に取り組んでいく必要があること。備蓄食料を適正に管理する。地区役員のなり手不足に対応するため、自治会の在り方について様々な可能性を検討する旨を意見として追加すること。
なお、行政評価から転記されている意見について、町内会に入らない理由が会計の透明性がないことに限られているように見えるので、議題 1 であった意見も踏ま

えて修正すること。

- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。

(異議なし)

- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。

施策 1－3 「豊かな環境の保全と気候変動対策の充実」

- ◎ 「地球温暖化・気候変動」の認知度は、どのように測定しているのか。

- 年 1 回実施している町民 1,000 名に対する無作為アンケートにより測定しています。

- そのアンケートは、どの程度回答があるのか。

- 今年度の実績だと 390 人から回答がありました。

- 「環境保全活動体験型イベント等の実施回数」の令和 5 年度実績が 8 回とあるが、これは町が主催するイベントなのか。

- 主催または共催のイベントです。

- イベントへの参加人数は把握しているのか。

- 担当課ではある程度は集計しているはずなので、次回までに確認します。

- 参加人数を KPI にできれば、有効なアウトカム指標になるのではないかと。イベントを開催するだけでなく、重要なのはどれだけの人がそこに興味を持って参加するかだと思う。

- 資料 4 の美化推進事業において、年 55 回の団体清掃が実施されたとあるが、これは町から支払いが発生しているのか

- かながわ海岸美化財団に対しては、町より負担金を支出しています。

- この活動に町民が参加できるなら、情報発信してもらいたい。

- かながわ海岸美化財団の事業であるため、町民参加はできません。

- ◎ その他、外部評価として行政評価から転記されている意見について、修正等はあるか。

- 記載されているごみの出し方に関するガイドブックの意見について、「四つ折りで両面印刷したものになっているが、」の文言は不要だと思う。

- 修正します。

- ◎ 外部評価としては、環境保全活動体験型イベントについて、参加人数を集計する必要がある旨を意見として追加すること。

- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」としてよいか。

(異議なし)

- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」とする。

施策 1－4 「デジタル技術による行政サービスの向上」

- ◎ 本施策に関しては、KPI 上の達成状況は A であり、方向性も特に問題はないと思うので、外部評価としては、現時点で記載のある内容のとおりとする。
- ◎ 以上により、施策に含まれる事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」とする。

施策 2－1 「二宮らしい魅力の創出と発信」

- ◎ 行政評価から転記されている本施策に対する、図書館のこども向けコーナーに対する意見についても、議題 1 であった意見を反映させ修正すること。
- 数値目標として、「二宮町の社会移動数」を位置付けているが、施策の指標に記載されていないのはなぜか
 - 総合戦略の基本目標に対して設定している数値目標のため、施策の KPI には記載がされていません。
- このままでは、年度ごとの計画値や実績値がわからないため、この目標の達成状況を見ることができない。
 - 参考として記載することができると思うので、評価シートに年度間の状況が分かる記載を検討します。
- ◎ 様式への記載が難しいのであれば、内部評価の中に記載するなど工夫すること。
- ◎ 行政評価から転記されている 3 点目の意見について、図書館を利用しない方に存在を意識してもらうことと、駅への返却ボックスの設置は意味が繋がらない。返却ボックスの設置はあくまで利便性を高めることが目的なのではないか。
 - 「仕事などで図書館を利用しづらい方の利便性向上のため」といった文章とするのはいかがでしょうか。
- ◎ そのように修正すること。
- 移住相談に参加された人のその後の情報把握について、その後の動向を追うのは嫌がる人もいるかもしれないが、相談の際に許可を得たうえで連絡先を教えてもらい、後日連絡することはできないのか。そうすれば、二宮町でなく、他の市町に移住された場合、なぜ二宮ではなく他を選んだのか、分析ができるのではないか。
- ◎ 外部評価としては、行政評価から転記した意見を修正したうえで、移住相談について後追い調査を実施する旨の意見を追加すること。
- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け順調であるため継続実施」とする。

施策２－２「特色ある教育活動の推進」

- 町の特色ある教育活動に英語教育を挙げているが、二宮町は都会に比べて自然に近い場所で暮らせるので、町民も様々な世代で美化意識が高いので、特色を英語だけにしているのはもったいないように思う。例えば、山林整備や農業などといった町民が自然と暮らすことに意識を向けながら、幼児から高校卒業までで自分たちの町について学べる環境を整備し、それを特色にする方が魅力的なものになるのではないかな。
- 以前、町が実施した小中学生を対象にしたアンケートで、二宮町が好きかという質問に対して、好きと答えた子どもが思ったよりも少ないと感じた。移住者としては町の自然は魅力的だと感じる一方で、町に住んでいる若い人には、ただ押し付けるのではなく、学ぶ内容を選択できる環境を用意することで、多角的なアプローチができると思う。
- ◎ 本施策に関しては、KPI も含めて町の特色ある教育活動を英語教育でなく、自然教育とすることで、こどもたちに自分たちの町を知ってもらうことを目指した見直しを検討する必要がある。また、こどもたちに勉強する選択肢を提供できる仕組みをつくる旨の意見を追加すること。
- ◎ 以上により、事業の進捗状況を総合的に判断した結果として、委員会としての評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」としてよいか。
(異議なし)
- ◎ 本施策に対する評価は「施策実現に向け対象や規模等の拡充が必要」とする。
- 時間の都合もあるため、施策３－１「妊娠から子育てまでの切れ目のない支援」から施策４－２「地域農林業の活性化」については、次回の委員会にて協議いただければと思います。

(３) その他

- 次回会議は１月下旬開催予定となっております。詳細な日程については、改めて調整させていただきますので、よろしくお願いします。

【以 上】